

氏 名	張 勝蘭 (教授、准教授、 専任講師)
こんな研究 をしています	・中国少数民族の歴史・社会・文化について研究しています。 ・特に少数民族社会と漢族社会との関係性に着目し、それによる少数民族の独自性・多様性の変化、及びアイデンティティの変容を考察しています。 ・主に中国南部の代表的な少数民族苗（ミャオ）族に焦点を当てて研究してきましたが、東南アジア・欧米に居住する同系統の Hmong 族にも注目しています。
こんな成果 を挙げています	【論文】 ・「「改裝」政令にみる苗族服飾の変遷と苗族アイデンティティ—清朝期及び民国期の貴州省を中心に」『21 世紀アジア学研究』第 20 号、国士舘大学 21 世紀アジア学会、2022 年 ・「土司統治の変遷から見る高坡苗族の伝統文化—中曹長官司長官謝氏を中心に」工藤元男教授退休記念論集編集委員会編『中国古代の法・政・俗』汲古書院、2019 年 ・「貴州高坡苗族「敲牛祭祖」について—高坡郷一帯を中心に」『WASEDA RILAS JOURNAL』NO. 6、早稲田大学総合人文科学研究センター、2018 年 ・「清朝の対「苗」政策と「苗」伝統社会のリーダーについて」『WASEDA RILAS JOURNAL』NO. 4、早稲田大学総合人文科学研究センター、2016 年 【翻訳】 ・候沖「大理仏教—インド仏教と中国仏教の二重構造」新川登亀男編『仏教文明と世俗秩序—国家・社会・聖地の形成』、勉誠出版、2015 年
ほかに、こんなジャンル に関心をもっています	・博物館学の観点からみる民族伝統文化と地域社会 ・アジアにおける民族間の文化交流史 ・日本における華僑華人社会、エスニック・マイノリティ ・近現代中国の歴史、社会、文化
こんな授業 を行なっています	マイノリティ社会論 A（春）・B（秋） 春学期は、日本とイギリスにおける中国系移民集団を対象に、それぞれの移住プロセス、コミュニティの形成、ホスト社会との関係、アイデンティティの変容について考察する。秋学期は、北アメリカと中国を事例に、国民国家の構築と先住民・少数民族・難民の問題について検討する。 マイノリティの諸相を複眼的に考察し、多文化共生について深く考えていきます。また 2025 年度は国際文化共同研究 B も担当することになりました。
学会や社会 でこんな活動 をしています	・早稲田大学と成都考古隊（現成都考古院）の中国四川省芒城遺跡の共同調査に通訳要員として参加し、三星堆文明叢書の翻訳に携わりました。日中学術交流に微力ながら貢献できるよう、翻訳も引き続き頑張りたいと思っています。 ・成都博物院（現成都博物館）の特別研究員として、民俗資料の収集、古代文明三星堆・金沙遺跡のドキュメンタリー作成などに協力しました。学芸員の資格をいかし、今も交流を続けています。 ・2017 年に「スミセイ女性研究者奨励賞」を受賞したことをきっかけに、同プロジェクトの周知に協力させていただくことになりました。今後も女子学生や女性研究者への支援活動に積極的に関わっていきたいと思います。